

今月のトピック

定植後のチェックポイント

暑さのピークは過ぎたように感じますがまだまだ暑い日が続きます。台風により天候も不安定で、定植後の栽培管理が心配になる時期です。作物の状態はどうか？機器は問題ないか？改めてチェックしてみましょう。

定植後の生育チェック

① 根張りはOKか？

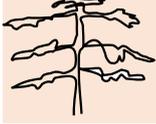
定植後、1週間程度経過すると、培地に根が伸び、水・肥料の吸収量が増えていきます。以下の状態を目安に、無事に活着したかどうか確認してみましょう。

- ☑ 苗の鉢土から培地に向かって白い根が伸びている
根の先端が茶色になり、伸長が止まっている場合はしおれが発生することも。培地温度が高くないか、灌水管理が適正か（多すぎないか、少なすぎないか）見直してみましょう。
- ☑ 葉の色が定植前の状態と比べて濃くなっている
葉の色の変化は、根が伸びて肥料を吸い始めているサイン。
- ☑ 生長点の色が定植前の状態と比べてやや淡い黄緑色（下葉より生長点の色が淡い）
水・肥料を順調に吸って成長スピードが速まってくると、生長点付近の色が黄緑色になります。

② 草勢管理は適正か？

定植直後～栽培初期はまだ開花・着果もなく、草勢が強くなりがちです。高温期の定植では第1花房はホルモン処理で確実に着果させましょう。初期の草勢が強くなりすぎるようなら、下葉を取ってコントロールします。給液量を少なくしすぎると高温期は障害が出やすいため排液が出ているかも確認します。

草勢イメージ（トマトの例）

前半型	中間型	後半型
		
初期強い・後半弱い 初期収量は多く、品質も良い 着果負担により中段以降の果実形状が悪い	初期中・後半中 収量、品質ともに安定	初期弱い・後半強い 初期収量少ないが、果実形状良い

③病害虫の発生はないか？

温度が高い時期は害虫や土壌病害の発生に注意が必要です。

☑ 予防剤や忌避剤、天敵資材を活用して病害虫を増やさない

☑ 天敵は害虫が少ないうちに放飼開始

タバコカスミカメなどの天敵は害虫が少ないタイミングで放飼を開始し、定着の状況を確認しながら初期は連続して放飼しましょう。

『ベミデタッチ乳剤』

トマトの樹への
コナジラミ類の定着を防ぎます。
株が小さい頃からの散布がお勧め！



『バコトップ』(タバコカスミカメ)

コナジラミ類、アザミウマ類を
捕食する天敵生物。バンカーブ
ランツと導入すると効果的です。



定植後の機器のチェック

①灌水量にムラがないか？かけたい量がきちんと灌水できているか？

場所による灌水ムラがないか、設定した灌水量がきちんとかかっているか確認しましょう。灌水が均一でない場合、生育ムラに繋がりがり、その後の栽培管理がしにくくなります。

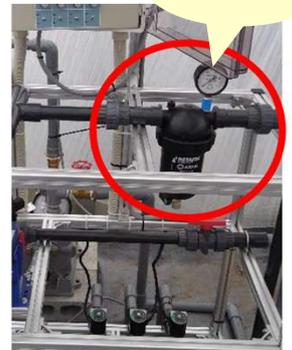
☑ 送水圧力が適正

オンラインドリッパーの場合は0.1MPa~0.2MPa程度（できれば末端で0.15Pa~0.18MPaは確保）の水圧で灌水します。送水圧が不足すると給液装置から一番遠いところなどで灌水量が不足します。灌水ムラがある場合は給液装置のフィルターをしっかりと洗浄し、送水ポンプの圧力を調整します。

☑ 点滴資材に詰まりがない

点滴資材が詰まっている場合は洗浄もしくは新しいものに交換しましょう。

圧力計



②液肥濃度は適正か？液肥ポンプの吸い込みは問題ないか？

機械の設定まかせにせず、実際の給液ECがいくつなのか調べてみましょう。栽培管理のためだけでなく、機器の異常にいち早く気づくためにも、給液量・排液量と給液EC・排液ECは毎日計測することをおすすめします。

☑ 液肥ポンプの吸引ホース・ホースストレナーに汚れがない

☑ 給液装置のフィルターに汚れがない

液肥が正常に打ち込まれないときに見落としがちなのがフィルターの汚れです。フィルターが汚れて液肥ポンプの打ち込み口の圧力が上がると、液肥が配管内に入り込みにくく、ECが下がることがあります。